

キバナコスモスが見ごろを迎えたという知らせがあり、(独)科学博物館筑波実験植物園に行ってきました。

キバナコスモスは園芸植物の一種で、花の形はコスモスにいますが、名前の通りその花色はオレンジや黄色の鮮やかな色をしており、いわゆるコスモスのイメージとはかなり違った感じがします。従って和名はもちろん「黄花コスモス」です。筆者はこの輝くようなオレンジ色が大好きです。

原産地はメキシコで、標高 1600m 以下の地域に自生していますが、18 世紀末にスペインのマドリッドの植物園に送られ、ヨーロッパに渡りました。日本には大正時代の初めに輸入された記録が残っています。

草丈は露地では約 30~100cm、平均 60cm 程度とコスモスよりも低く、枝はコスモスよりも広がって生育します。鉢植えやプランター向けにはちょっと大きすぎるので、草丈 20cm 程度の矮性種も出回っています。花期は比較的長く、6 月から 11 月にかけて直径 3~5cm 程度の花を咲かせます。花には一重咲きと八重咲きがありますが、園芸品種として市場に出回っているものほとんどは八重咲きです。

キバナコスモスの花はオレンジ色と書いていましたが、バイテク育種の進展でしょうか、最近



は様々な色が出てきています。中には黒紫色の一重咲きでチョコレートのような香りがするコスモスがあるということです。残念ながらまだ見たことがありません。スイーツ好きにはよいかもしれません。筆者は秋の午後の日差しの中でキバナコスモスを眺めながら、よく冷えた美味しいオンザロックが飲みたいです。

さて、ニッサンメールマガジン第 107 号をお届けします。

バターの安定供給について

農林水産省は、平成 27 年度について、バターの生産量が増加し、供給が需要を上回る見込みとなっていることを踏まえ、9 月時点では、バターのさらなる追加輸入は行わないこととしました。

詳細は[こちら](#)をご覧ください。

「平成 27 年度(第 16 回)民間部門農林水産研究開発功績者表彰」の受賞者決定

農林水産省及び社団法人農林水産・食品産業技術振興協会は、農林水産業その他関連産業に関する研究開発のうち民間が主体となっていて行っているものについて、その一層の発展及びそれに従事する者の一層の意欲向上に資するため、優れた功績をあげた者を表彰しており、今般、農林水産大臣賞ほか各賞を決定しました。

今回は 11 名の方が受賞されましたが、そのうち 3 名の方は畜産関係の課題です。この方々の受賞課題と業績の概要は下記の通りです。

【農林水産技術会議会長賞 民間企業部門】

牧草サイレージ不良発酵原因の解明とサイレージ用乳酸菌の開発

北村 亨

雪印種苗株式会社 微生物研究グループ

北海道に特有の高水分牧草サイレージの極端な不良発酵の原因が、草地の植生と施肥にあることを明らかにした。さらに、こうした条件でも効果を発揮できるサイレージ用の乳酸菌の分離・選抜にも成功した。開発した乳酸菌は商品化され、現在、普及が進んでおり、北海道における牧草サイレージの不良発酵改善に貢献している。

【公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会会長賞】

アカバネウイルス新規製造用株を用いた牛異常産三種混合不活化ワクチンの開発

小林貴彦、長野史郎、宮原徳治

一般財団法人 化学及血清療法研究所

アカバネ病は吸血性節足動物が媒介するアカバネウイルスに妊娠牛が感染することにより、流産、早産、死産や子牛の先天異常を起こす感染症であり、畜産農家に大きな経済的被害を及ぼす。本疾病を予防するため、従来のワクチン株に比べて、抗原性が異なる株にも有効な新規製造用株を選出し、動物用医薬品として実用化した。

厳冬期でも凍結しない環境配慮型車両消毒装置の開発

内海洋、山田幸雄、関村徹、田中一郎*

株式会社アクト、*元帯広畜産大学（現：帯広信用金庫）

伝搬能力の高い家畜伝染病は車両等の徹底した消毒が重要であるが、厳冬期は凍結のため効果的な消毒方法がなく、畜産現場からは技術開発の要望が高かった。開発した技術は、運転手が車外に出ることなく、マイナス30℃でも必要な時に自動的に瞬時に作動して車両の隅々まで消毒が可能であり、また、排水は浄化処理を行うなど環境にも配慮した装置である。北海道を含めた畜産関連施設で普及が進んでいる。

他の受賞課題とその業績については、http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/pdf/151007_2-03.pdf [こちら](#)をご覧ください(外部リンク)。表彰式は 11 月 18 日(水曜日)に[東京ビッグサイト](#)で開催される「[アグリビジネス創出フェア 2015](#)」の会場内で行われます。

酪農・豆知識 第 102 号の概要および URL

分娩事故を未然に防ぐため、産道が狭い初産牛には生時体重の小さい黒毛和種を人工授精するか受精卵を移植することが以前から行われてきました。最近乳用牛への黒毛和種交配割合が増加し、都府県では約 50%の乳用牛に黒毛和種が交配されています。すなわち、酪農家においても黒毛和種の ET 子牛や F1 子牛の育成のための飼養管理が求められてきています。

そこで子牛の疾病の約 57%を占める下痢について、その予防技術と子牛の免疫増強のための初乳の強化について「酪農・豆知識」第 102 号にまとめてみました。

子牛の損耗防止に効果のある技術情報と製品について紹介したニッサン情報[第 59 号](#)及び[60 号](#)と[併せてお読みください。](#)

「酪農・豆知識」は、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

今回より印刷用の PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく願いします。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。